

旧吉田家住宅紫雲閣



三春郷土人形館



旧吉田家住宅紫雲閣

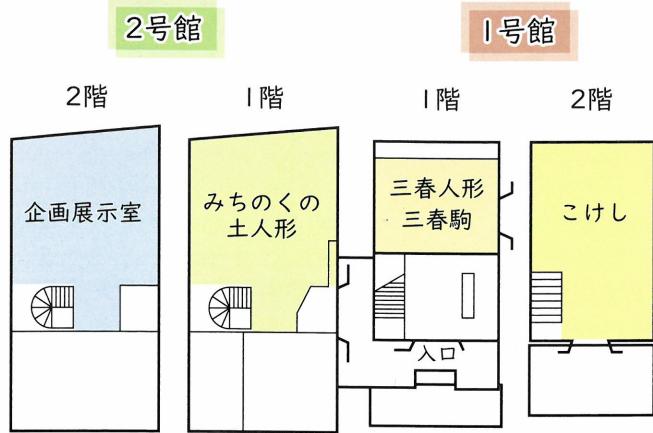
〒963-7759 福島県田村郡三春町字大町82
電話 0247(62)5263(三春町歴史民俗資料館)
<http://www.town.miharu.fukushima.jp/site/rekishi/>
E-mail shiryokan@town.miharu.fukushima.jp



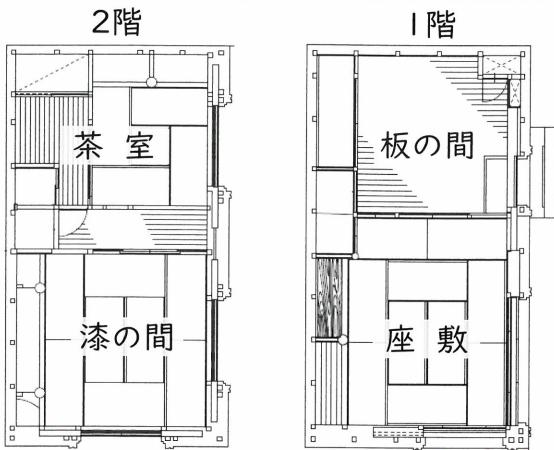
三春郷土人形館

〒963-7759 福島県田村郡三春町字大町30
電話 0247(62)7053
<http://www.town.miharu.fukushima.jp/site/rekishi/>
E-mail shiryokan@town.miharu.fukushima.jp

三春郷土人形館館内図



旧吉田家住宅紫雲閣館内図



三春郷土人形館・旧吉田家

開館時間

午前 9 時～午後 4 時 30 分 (入館は午後 4 時まで)

休館日

月曜日・祝日の翌日 (月曜日が祝日の場合はその翌日)・年末年始・くん蒸日

*冬季休館があります。詳細は三春町歴史民俗資料館 HP を参照してください。

友の会

三春町歴史民俗資料館には友の会制度があります。
詳しくは係員にお尋ねください。

ご注意

- 館内での飲食・喫煙は禁止です。
- 三春郷土人形館内の撮影や複写等は許可が必要です。
- 紫雲閣内の撮影は可能ですが、他の見学者の方にご配慮くださいますようお願いします。



住宅紫雲閣共通ご利用案内

入館料 (団体は 20 名以上)

一般・大学生 200 円 (団体 150 円)
小・中・高校生 100 円 (団体 70 円)

*三春町歴史民俗資料館との共通券

一般・大学生 400 円 (団体 300 円)
小・中・高校生 200 円 (団体 150 円)

特別展の際には料金が変更になる場合がありますので、ご了承ください。

交通

- 東北新幹線郡山駅よりバス 40 分
- 磐越自動車道郡山東IC/ 船引三春 IC より 10 分
- 磐越東線三春駅より徒歩 30 分



駐車場

専用の駐車場はありません。
三春交流館「まほら」駐車場
(徒歩 5 分)、公共施設駐車場
(徒歩 10 分)をご利用ください。

三春郷土人形館について

らっこコレクションのこと

当館が所蔵・展示する人形たちは「らっこコレクション」と呼ばれる蒐集品です。

「らっこコレクション」は、昭和初期に故・中井淳氏が東北大学のらっこ山寨と呼ばれた寮で蒐集し、後輩の故・高久田脩治氏が引継ぎ、三春に移して守り伝えたものです。中でも、堤人形をはじめとした東北地方の土人形は、コレクションの白眉で中核をなし、各系統のこけしや三春人形などとともに、東北地方における「ふるさとの人形たち」として公開しております。これらの中には、すでに廃絶して地元でも見ることのできないものもあり、少しづつですが順次公開してまいります。

三春人形

三春人形は、江戸時代に三春藩領の高柴村（現在の郡山市西田町高柴）で製作が始まった張子人形です。

高柴では、大小のだるまや各種の面など、たくさんの種類を製作していますが、特に雛人形や風俗人形、天神、恵比寿、大黒などを「三春人形」と呼んでいます。

中でも、風俗人形の類は、形態、表情、色調など格調高く、すぐれたものが多いです。「三春人形」は、紙を貼り合わせて作る張子という製法上の利点を最大限に活かし、土人形では表現が難しい複雑な形状の製作を可能とし、さらに扇や刀・弓といった小道具類を付属させることで、精巧さを極めました。



東北の古人形

東北地方の木製馬玩

名馬の産地である東北地方では、古くから馬のおもちゃが創られてきました。なかでも、三春駒と木ノ下駒、八幡馬は、日本三大馬玩といわれています。



三春駒



木ノ下駒



八幡馬

こけし

「こけし」は木地師がロクロにかけて挽き出す木の人形で、現在11系統に分類されています（中ノ沢を含めて12系統ともされる）。

文化・文政期のころ、宮城県を中心とする温泉場近くに住む木地師によって創始されたと考えられています。

東北地方の土人形

東北地方の土人形制作の始まりは仙台の「堤人形」で、元禄期ころに創始されたと伝えられています。これより少し遅れて岩手の「花巻人形」、山形米沢の「相良人形」、福島の「三春人形」など、東北各地にも続々人形産地が誕生して、文化・文政期には最盛期を迎えました。



堤人形「和藤内」



遠刈田系こけし

旧吉田家住宅紫雲閣について



建築年代：明治後期

建築面積：48 m²

形式：土蔵造 2階建、瓦葺

指定：国登録有形文化財（建造物）

旧吉田家住宅のうち、主屋北西の高台に建つ2階建の蔵座敷で、ベランダ風の下屋が矩折れに付きます。二階南側の座敷は、軸部を赤色系の磯草模様で仕上げ、床柱と落掛に龍の彫刻を巻き、鏡天井を円形に縁取って、赤漆で仕上げています。中国趣味を取り入れ、多彩な工芸技術を駆使した、奇抜な意匠で稀有な建物です。

紫雲閣1階・座敷



1階の座敷は、畳に合わせて作られた「鏡天井」や、躍動感のある床柱などが見どころです。

主屋や2階の部屋と共通するデザインや同じ材料がたくさんみられます。施主の拘りを探してみてください。

紫雲閣2階・漆の間



漆の間は、龍をモチーフとした彫刻や意匠が多くみられる中国趣味の部屋です。床の間の龍の彫刻は、横浜や東京の博覧会で買い付けたものとされ、部屋の大きさに合わせて彫刻が継ぎ足されています。昇り龍の先には天井に雲が描かれて宇宙を表現します。また、内装は木部分を一切見せず、三春漆の磯草模様や津軽塗の唐塗など、10種類程度の漆が用いられています。誠次郎は謡が趣味であったことから、音が反響するよう漆が塗されました。

紫雲閣2階・茶室



茶室は、大きな円窓を設けて陰陽を表現し、土壁に反故紙を貼って詫びを表すなど、伝統の中にも施主の工夫やこだわりが感じられる草庵風の茶室です。三又に分かれた3本の柱の変木が特徴で、自然の美しさを表現しています。亀の彫り物や欄間の彫刻は買い付けたものと考えられ、部屋のコンセプトに合わせて美しく配置されています。